

週日の説教

金 大烈 神父 2010年9月11日(土)

《良い木となり、良い実を結ぶために - 今何をすべきか積極的に探しましょう - 》

ある本でこのような文章を読みました。「時間がない時に、時間がある。忙しい時に、もっと働ける。」初めて読んだ時に、すぐ理解出来ませんでした。少し考えてみてから分りました。皆様も意味が分かりますか？逆に考えてみましょう。「時間がある時には、時間がない。暇がある時こそなかなか働けない。」少し考えてみれば分かると思うのですが、皆様もこのように思いませんか？「忙しい、忙しい。」と言いながらせっせと働く時には、いろいろなことができるのに、時間に余裕がある時には、普段できたことさえできなくなります。そうではありませんか？

さあ、もう一つの時間の話を紹介します。私たちの時間というのは大体三つに分けられますよね。一つは『過去』、一つは『現在』、そしてもう一つは『未来』です。その中で、私たちの時間はどれでしょうか。『現在』つまり今ですね。『過去』はもう過ぎてしまったから、やり直すことはできません。私たちの手から離れた時間です。『未来』は、予想は出来るかもしれませんが、未来についてはっきり分かるのは神様だけです。未来はまだ私たちのものではなく、神様のものです。

なぜ急に時間の話をしているのか、ご説明します。最近、予想もしなかった方が何人か亡くなりましたね。この共同体の中でも突然亡くなられた方がいます。私たちは、戸惑い、心を痛め、どうしたらよいか迷いました。私たちには、1分先のことさえ分かりません。『未来』は、ただ願う心で希望するだけの世界です。本当に自分のものだと言えるのは、『現在(今)』だけです。

今日の福音(ルカ 6・43 49)に「**良い木から良い実が結ばれる。**」と書いてあります。これはもう誰にでも分かる話ですよ。野ばらの木にぶどうが実るはずはありません。では、この福音の『良い木』とは何でしょうか。私たち信仰者にとっての『良い木』というのは、もともと決まっているものではなく、イエス様と共に生きることを『良い木』と言うのではないかと思います。岩の上に土台を置いて家を建てる人の話もありますが、この岩も、私たちにとってはイエス様でしょう。私たちは、よく分からない未来に“良い実を結びたい”と思って生きています。しかし、私たちだけではよい方法は見つけれないでしょう。良い実を結ぶためには、イエス様のみ言葉に従って生きる『良い木』とならなければならないのです。

私たちはよく『危機感』という言葉を使いますね。この言葉には、否定的なイメージがあります。しかし、私たちが自分らしく、そして神様の子らしく生きるために適度な危機感を感じることは、肯定的なことだと思います。今の私たちは、危機感を感じなさ過ぎです。未来ははっきり分からなくて、神様に任せるだけの世界かもしれません。しかし、健康的な危機感を感じて、自分から何をしたらよいか探し、行おうと努力することは、必要なことです。

私が9か月前に頼んだ宣教のことも、このように考えて、自分から探し、積極的に取り組んでいた

だきたいと思います。それ以外にも、私たちが共同体で行う全てのことは、同じように考えればもっと意味深いものになると思います。

今日の福音は簡単なことです。私たちは、この瞬間に何をすべきか、いつも意識しながら生きられれば、本当に幸せになれると思います。

ありがとうございました。